

アイヌと星々

アイヌは航海と物語の両方に星を利用していました。星座は神話上の人物や動物、日常生活の様相を描いていると考えられていました。旭川では、北極星のアイヌ名は「大きな星」を意味する「ポロノチウ」です。近くにある北斗七星は「踊る星」を意味する「ウポポノチウ」として知られ、その7つの明るい星は、輪になって楽しく歌い踊る7人の少女を表すと信じられています。プレアデス星団は「アラワンチウ」と呼ばれ、農作業から逃げ出した怠け者の7人の少女という対照的な物語を伝えています。

一部の星々はアイヌの生活の喜びと悲しみに密接に結びついています。金星は伝統的に「オヌマンノチウ」（宵の明星）として知られていましたが、18世紀になると「スワラノチウ」という新しい名前を持つようになりました。秋のサケ漁が最盛期を迎える季節、石狩湾の商業漁場で働くアイヌの労働者たちは、その時期には西の空から金星が消える午後9時頃までは休むことを許されませんでした。この星は和人（民族的日本人）によるアイヌ労働者の搾取と、愛する者たちとの離別の象徴となりました。「スワラ」は、過酷な労働を監督していた和人の現場管理人の名前でした。アイヌにとって、スワラノチウは先祖たちが耐え忍んだ苦難を思い起こさせる重い記憶となっています。